



さなぎ達通信

VOL. 24 2010年9月発行

特定非営利活動法人さなぎ達 〒231-0026 横浜市中区寿町3-9-8 電話045-228-1055

世代は変わっている

今月号の巻頭は**第2回座談会**です！今回は寿町と関わって27年の大ベテラン！事務局長の櫻井さんを囲み、設立後10年、さなぎの家の活動を中心に振り返りました。発言者：(櫻) さなぎ達理事・事務局長 櫻井武麿、(土) 同理事・さなぎの食堂シェフ 土谷伊麻里、(田) さなぎ達職員 田中陽介、(川) 同職員 川崎泉子

さなぎの家の変化

(土谷) さなぎの家ができて10年経ちますが、目に見えた変化ってありますか。

(櫻井) 今までは、日雇いの人が中心だった。野宿している人たちも仕事を軸にこの町で生活していた。今日は仕事があるかないかとか、そんな問題が「さなぎの家」で繰り広げられていたんだよね。だけど、今はそうじゃなくて、仕事というよりは生活の問題がだんだん中心に変わってきている。そこが大きな違いだと思う。

(土) 仕事が減ったことと関係がありますよね？

(櫻) それはあるかな。と同時に、今は新しく路上に入った人たちが、町に定着してここで過ごしている。昔路上で生活していた人たちってというのは、もうほとんど亡くなっている。世代が変わっているってことかな。

(川崎) 今言ったような生活の問題だと、例えばどういう相談がありますか？

(櫻) んーあれだね、生活保護が切れそうになって、どうしたらいいかっていう問題が大きいんじゃないかな。

(土) 再び、路上に落ちてしまう恐れのある人たちですか？

(櫻) そうだね。その人たちは部屋に入ったとしても依然として生活問題を抱えているわけだから、再び路上に落ちないようにする予防的な関わりが必要だよ。そういう人への対応っていうのが、「さなぎの家」が果たす役割の中で大きなウエイトを持ってきているってことだと思うよ。

最近の特徴

(川) さなぎの家を利用している方のキャラクターも変化しているようですが、昔はどのようなキャラクターの人がいましたか？

(櫻) この町で、独特の状況の中で生活していた人たちだから、まあ、やくざの人たちとか、昔やくざだった人とか…そういう人たち。

(一同) はい…

(櫻) あとは労働者だね。

(田中) “労働者”って感じの人たちですよ？真っ黒で、髭もじゃで、がっちりした身体で。

(櫻) そうそう。そういう人たちが中心だったんだけど、だんだんそうじゃなくなって、仕事とは関係なく路上から上がった人たちが、かなり多くなってきたと思う。

(田) 次の段階に来たっていう頃ですよ。

(櫻) 「さなぎ達」が、前のイベント型から色々な事業型に転換した辺りから、内容的にも変わって、キャラクターも、かなり多彩になってきた。

(田) 若い人がいたり、障害者がいたり…

(櫻) そうね。以前から障害者の人たちはきていたけど、その方達はある意味仕事できていた。知的障害を持っていても、ちゃんと働いていた。「俺は明日仕事に行くんだよ」とか、そういう人たちが出入っていた。

(田) へえ～。

(櫻) だけど、生活保護を受けて障害を抱える人が入り始めたのは、ここ数年の話だよ。

(川) 他にここ2、3年で変わったこととかってありますか？

(櫻) そうだねえ…さなぎ達のことでは、事業ごとの連携っていうのは、最近の大きな特徴だと思う。

(田) 事業として、地に足つけてやっていたら、路上生活の状態から「なんでもSOS班」で相談につないで生活保護になって、食堂でJUMPをやるようになって、歳をとったらKMVPで見ていく、そういう流れでの繋がりが生まれますよね。

(川) 確かにそういうのが出来てきたのは、ここ最近かなってからの感じがしますね。

(土) そうだね。

(田) イベント型だとそうはいかないですもんね。

(櫻) 単発的に色んなアクションはあっても、それが他の事業と連携して繋がっていくっていうことは、あまりありえなかったね。

(田) はい。

(櫻) 前は、それが尻切れトンボになって、町の事業の方に吸収されていったりしてたんだけど、それが「さなぎ」の中で回りだしたっていうのは、結構大きいんじゃないかな。

(一同) うなずく

さなぎの家の今後

(川) 今後はどうなっていくそうですか？課題とかはありますか？

(櫻) 基本は変わらない。「さなぎ達」の問題性の入口は「さなぎの家」にある。それは変わらないと思うよ。

(川) そのときのニーズとか変化によって柔軟に対応していくってことですか？

(田) でも、今さなぎの家でやっていることは路上生活者の質が変わったとしても、変わらずに皆が持って

いる基本的なニーズを満たすことだから・・・衣類の提供にしても、コミュニケーションの場の提供にしても、そういう意味では利用する方が変化しているとしても充分対応できる場だと思いますよ。

(櫻) あとは、これからの問題として、町全体の動きと連動していく可能性が大きくなっていくと思う。町全体の動きや変化を見渡していく中でどういう働きをしていくかっていうのが、かなり大きな違いになってくるんじゃないかな。さっき言ったように、前は日雇い労働の町の名残りっていうのが色濃くあったんだけど、それが現在の状況だと、完全に町自体が福祉の色合いが濃くなってきているからね。それに対してサポートしていく体制っていうのが、色んなアクションを起こしている他のグループと連動していく必要がだんだん出てくる。

(田) そうですね。

(土) 今、何か困っていることはありますか？

(櫻) まあ、できれば・・・もうちょっときれいな家になりたいな。

(一同) 笑(納得)。

(田) 全く・・・。

(土) そうですね。

(川) もっと使い勝手のいい形にしたいですね。高齢者や、障害者も増えているし・・・

(土) 車イスが入れたりとかね。

・・・と、「さなぎの家」への思いは尽きないようですが、今回はこの辺で。より過ごしやすい憩いの場になりますように！(2010年9月6日)



身内ブック

さなぎ達職員のニューフェース・新井 桃さんのご挨拶を掲載します。新井さんはことし8月から事務局で勤務しています。年齢は20代後半とだけ明かしておきましょう。という訳で、今号は「ゲストブック」ではなく「身内ブック」です。

今年の夏は、相当な暑さでしたね。わたしは、ほとんど事務局にいますが、近くの銀行まで往復するだけでも、汗が流れ、気が付いたら焼けていました。こんな肌の色は久しぶりです。

寒がりなわたしにとって、冷房の効かない事務局は、ちょうどよい空間でしたが、暖房も効かないというこ

とを聞き、冬の寒さに耐えられるか、今から心配です…。何か効果抜群の冷え対策はありませんか？

わたしは職員になって初めて「寿町」を知りました。中華街にハマリ、毎週通っていた時期もあったのですが、その近くにあるこの町の存在は、何も知りません

でした。

最初に寿町の説明を受けた時、“ホームレス”ではなく“ホープレス”という言葉が印象的で、希望や生きがいを失ったら生きていけないと感じました。それは、生きていても生きていないようなもの。ただ息をして、そこにいただけ。やりたいこともやるべきこともなく、ただいるだけ。そんなの寂しすぎる。そんなの嫌ですよ。家があるのにホームレスになる人と同じかもしれません。でも、そういう人はたくさんいます。夢を持ってと言うのは簡単だけど、夢や希望を与えられるわ

けではない。誰しものが、自分の責任で、自分の人生を選んでいきます。

わたしにとって、寿町は、自分の人生を見つめ直せる場所になりました。この町で感じることは人それぞれだと思いますが、もし、まだ寿町を訪れた事がなかったら、是非一度足を運んでみてください。

なんだか真面目な文章になってしまいました。

わたしは、自分に出来ることを模索しながら、今日もここにいます。

NEWS

ことしも寿の夏祭りで、さなぎ達とつながるボランティアの皆さんがカレーの炊き出しをしました。参加者による報告です。

暑い夏祭りにカレーはピッタリ！

坂口 育子

8月14日、寿町夏祭りにカトリック山手教会を中心に多くの方のご協力のもとカレーの炊き出しを行いました。教会での数回の呼びかけにこれまで以上にお手伝いが集まりました。

前日の野菜刻みには30人以上の方が参加して下さ

り手際よく準備が進みました。当日の朝、教会ホールの台所はご飯炊きで活気があふれました。寿福祉センター前の会場では午前9時から大鍋でカレーの調理が始まり、小・中・高校生をはじめ様々な年齢層の仲間が愛のスパイスたっぷりのカレー作りに汗を流しました。多くの方がこのカレー炊き出しに関心を持ち、ある方はご夫婦で、ある方は親子で、ある方は初めての場



所に迷子になりながら、またある方は誰も知り合いがないのに勇気をもって集まって下さいました。そして例年貢献されているベテランの「さなぎ」の方に助けていただきながら、12時には長蛇の列

になった皆さんに600食以上のカレーを配食し、大鍋から見る見るうちにカレーがなくなっていきました。

カレー作りの合間には寿町ツアーもあり、寿の街の様子や人々の暮らしぶりにも触れることができ、大きな発見につながったと思います。

みんなが笑顔で毎日がおごせるよう、支え合える繋がりがこれからも広がっていけば良いと思いました。

9月になり木曜パトロールが再開しました。毎回多くのボランティアの方に集まってもらっておりこの活動は支えられています。

9～10月は第2・4木曜日、11～2月迄は毎週木曜日に実施します。どなたでも自由に参加することができますのでぜひお手伝いをお願いします。参加希望の方は事務局まで(045-228-1055)ご連絡をお願いします。

◎さなぎ達活動データブック(2010年3月～8月)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月
さなぎの家来場者(人)	3047	2904	3451	3349	3469	3558
〃 物品配布数(点)	2027	2246	2759	2778	3125	2636
寿JUMP参加者(人)	2	4	4	4	4	2
KMVP利用者(人)	4	3	4	7	5	5
KMVP活動件数(件)	13	10	11	27	13	35
さなぎの食堂仕出し弁当(食)	197	191	128	148	165	70

(注1) KMVP: 寿まもりボランティアプログラム

(注2) 仕出し弁当8月は20日間お休み



編集後記 9月上旬の発行予定が大幅にずれ込みました。申し訳ありません。巻頭の座談会でも指摘されているように、寿が「福祉の街」となったことで、さなぎの働きにも変化が起きていくようです。しかし、「寄り添う」という原点は変わらないでしょう。(NP)

さなぎ達へのご寄付は、銀行もしくは郵便振替口座をお願い致します!!

◆三井住友銀行 横浜支店 普通 6967937
口座名「特定非営利活動法人 さなぎ達」

◆郵便振替口座 00260-8-65127
口座名 「特定非営利活動法人 さなぎ達」